

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
児童福祉論 Social welfare for the children		2年	後期	水曜日・6時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択 (栄養士養成課程選択)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
障害者福祉論・老人福祉論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
障害者福祉論・老人福祉論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大熊 信成	社会福祉棟 3F	火から金曜日9:00~17:00 授業時間を除く	授業中に指示します	
授業の概要				
高度な社会システムとともに生活も豊かになっている現代社会において、子どもたちが健全に育ち豊かな人格形成をすることがかえって難しい状況である。この授業では事例を中心としながら福祉・教育・心理など多角的アプローチによって理解を深めていき、子どもの個々の諸問題に応じた援助技術を学んでいく。				
授業の到達目標				
①児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解できるようにする。②児童・家庭福祉制度の発展過程について理解できるようにする。③児童の権利について理解できるようにする。④相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で授業をおこなう。事例を中心に考察していくので必要に応じてグループ討議やレポートの提出を実施することがある。自ら考えて実践できる能力を養うために様々なアプローチ方法を学んでいく。				
学習の成果				
①児童及び家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解することができる。 ②児童及び家庭福祉制度の発展過程について理解することができる。 ③児童の権利について理解することができる。 ④相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・現代社会と児童福祉・家庭福祉の役割			
第2回目	児童福祉に関する諸法令と福祉臨床			
第3回目	児童福祉及び家庭福祉サービスの仕組み レポート「現代社会における子ども達」			
第4回目	児童福祉サービスの仕組み			
第5回目	相談機関等の役割と実際			
第6回目	児童福祉及び家庭福祉サービスの実際			

第7回目	各臨床分野における児童福祉サービス (障害児・ひとり親家庭・児童健全育成)		
第8回目	地域臨床における保健・医療・福祉の連携		
第9回目	児童福祉援助活動の実際－母子生活支援施設の事例		
第10回目	児童福祉援助活動の実際－統合キャンプの事例(発達障害児へのアプローチ)		
第11回目	児童福祉援助活動の実際－重症心身障害時の事例		
第12回目	児童福祉援助活動の実際－児童虐待の事例		
第13回目	児童福祉援助活動の実際－多動児の事例 保育所の事例 全盲児の事例など		
第14回目	児童福祉を担う人々について レポート「児童福祉に関わる専門職について」		
第15回目	総括 課題と展望 論述式筆記試験 (定期試験)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的にを行い、授業に臨むことができる。
レポート		20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。序論、本論、結論と3部構成になっている。
調査報告書			
小テスト		10%	毎回の授業において小テストやアクションペーパーを行う。学びの振り返りができる。
中間・学期末試験		60%	論述式・選択式で行う。
発表内容 (態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』、弘文堂・『社会福祉の成立と課題』勁草書房 他 授業中に適時指示し、資料を配布します。			
履修上の心得・ルール			
一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。			